



# 鎌倉市中央図書館 近代史資料室だより

第 11 号

鎌倉市中央図書館  
近代史資料担当  
鎌倉市御成町 20-35  
電話 0467 (25) 2611

## 報告 令和 7 年度郷土資料展

### 「資料が語る、戦争と平和」展

【会期】令和 7 年（2025 年）

8 月 6 日（水）～ 31 日（日）

【会場】鎌倉市中央図書館 1 階ギャラリ

戦後 80 年の節目の年にあたり、鎌倉市内にお住まいの方々から当図書館へご寄贈いただいた関連資料を、ご紹介しました。

### 【展示概要】

△写真に記録された戦時中の町の姿

・南京陥落提灯行列 全国的に祝賀行事が行われ、鎌倉でも町ごとに提灯行列が行われた。

昭和 12 年 12 月（朝戸涼氏提供）

・国防婦人会小町班 昭和 13 年 8 月

・祝入営 大西清道さん（関スミ子氏提供）

・出征兵士 金子純さん 昭和 13 年 8 月 6 日

（石渡源三郎氏提供）

・出征兵士鎌倉駅前にて 長谷石渡芳男さん

昭和 14 年 7 月 29 日

・出征兵士 鎌倉駅頭にて歓送

昭和 14 年 9 月

（「国防婦人会小町班アルバム」より）

・紀元 2600 年 長谷甘縄神明にて楽隊を中心に笑顔の人たち 昭和 15 年

（石渡源三郎氏提供）

・遺家族慰安会 鎌倉松竹映画劇場において、鎌倉町 腰越国防婦人会が開催、昭和 15 年

（「国防婦人会小町班アルバム」より）

（「国防婦人会小町班アルバム」より）



銃後報国隊 小学生



遺家族慰安会

- ・銃後報国隊 勤労奉仕のため市役所前に整列する小学生 昭和 15 年頃（内田シゲ氏提供）
- ・葛原岡日野俊基碑参拝 国民服を着た大船地区の人たち昭和 18 年頃（甘粕小三郎氏提供）
- ・ヒットラー・ユウーゲント来鎌 海浜ホテルにて歓迎集会 昭和 13 年 9 月（内田喜恵氏提供）
- ・鎌倉署管内事情座談会記念 この年、国家総動員法発動。10 月、広東、武漢三鎮占領の報が入る。海浜ホテルにて 昭和 13 年 10 月 29 日（平井利一氏提供）

### ◆報告 令和 7 年度郷土資料展 目次

|                          |    |
|--------------------------|----|
| ◆「資料が語る、戦争と平和」展          | 1  |
| ◆「鎌倉アカデミア創立記念」展          | 7  |
| ◆「展示・佐草氏スケッチ帳」より         | 8  |
| ◆「昭和の夏 鎌倉カーニバル」          | 9  |
| ◆「初夏の花たち」村田昌彦氏撮影写真       | 10 |
| ◆古文書紹介「石山約定書」十二所山口家文書    | 10 |
| ◆研究ノート                   | 11 |
| ◆「材木座幼稚園とフランク・S・ブース」藤本悟  | 11 |
| ◆（むかし語り）⑩かいひん荘鎌倉 猪股千鶴子さん | 18 |

・日の丸寄せ書き 木村彦三郎氏宛  
出征兵士へ地域の友人知人から寄せ書きが贈られた。

・手紙―(軍事郵便)

海軍航空隊隊員横山秀男氏から大船町田園に住む兄

寶作氏へ(昭和 19 年)



横山秀男氏は昭和 20 年 4 月 21 日「特攻隊員」として沖繩周辺にて戦死と記録されている。秀男氏のご遺族は、兄弟姉妹が語り継いでおられる。資料寄贈：横山洋子氏(小袋谷)

夫君横山辰男氏(故人)は元「玉繩歴史の会」会員

・「奉公袋」帝国在郷軍人会鎌倉町分会

裏面に、応召ノ場合携行スル品(軍隊手帳、貯金通帳など)が印刷されている。岩澤友吉氏旧蔵「軍隊手帳」「最新軍歌集」(東京万巻堂発行 大正 14 年初版)

・襷(たすき) 極楽寺岩沢氏旧蔵

「大日本愛国婦人会」「大日本国防婦人会」



\*冊子「鎌倉・太平洋戦争の痕跡」は、鎌倉市図書館ホームページで見られます。

鎌倉・太平洋戦争の痕跡 陣地

戦争遺跡調査の始まり 平成 10 年(1998 年)

〜平成 15 年(2003 年)協力 CPC の会

陣地構築跡(津西・広町・玉繩・名越・山ノ内・

岩瀬今泉・極楽寺・鎌倉山など約 50 ケ所)

軍事施設(富士飛行機・海軍工廠) 体験談 12 回

おぼけトンネル 極楽寺側の出口で写真  
左手前の三輪車のうしろに弾薬庫入口があり、現在はコンクリートで塞がれている。



北鎌倉駅付近の銃眼

北鎌倉駅下りホームの大船寄りの JR 線に沿った住宅の裏山に洞窟の出口があり、駅方向に向いた銃眼が見えた。鎌倉によく見られる「やぐら」の穴と銃眼とが同居している様はここならではの光景である。現在は測量のあと封鎖されている。県埋蔵文化財調査の折り、撮影ができた。



右上…玉繩城本丸下辺り  
左上…岩瀬大長寺境内  
右…津村白山橋付近



# 体験談

□小学校 6 年生が見た終戦前後の鎌倉

(芹沢良治さん)

(冊子『鎌倉・太平洋戦争の痕跡』より)

PDF 資料・鎌倉市図書館ホームページ

↓近代史資料室↓発行物↓その他

横浜の空襲

昭和 20 年 5 月 29 日、真昼間に横浜が空襲を受けた。この日、伊豆半島の方から飛来した重爆撃機 B 29 が、ハの字に編隊を組んで鎌倉の上空を通過していった。

当時、兄弟のように仲良くしていた近隣に住む 2 才年長のコー(孝)ちゃんの家で B 29 の数を数えたが、300 機までは記憶している。

そのうち八幡宮の大臣山の向こうから入道雲のような物凄い火災の煙がモクモクと幅広く天空に上がるのを見た。今まで見たこともない光景に、思わずコーちゃんの家の出窓を壊してしまっただので、今でも鮮明に覚えている。

第一国民学校へ陸軍の駐屯

昭和 20 年 5 月から 6 月のころ、第一国民学校に軍隊が駐屯した。一大隊 200 人くらいだったと思う。当時小学校は生徒数 2,600 人くらいの大所帯であった。

七里ヶ浜、極楽寺、長谷から大町にかけての広い範囲から生徒が通っていた。一組 55 人で 8 組あった。その上、高等小学校から青年学校までであった。

兵隊の炊事

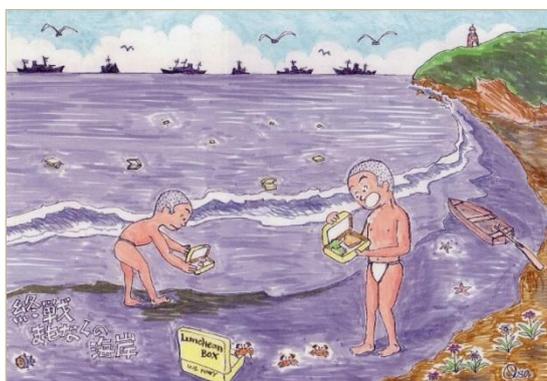
第一国民学校の琵琶小路側の斜面を利用し

て、ドラム缶を据え付けて竈代わりとし、飯を炊事当番が炊いていた。大きな鍋の回りにこびりついた焦げ飯を兵隊がくれるので、これをもらうのが楽しみであった。子供らが、炊きたての飯がつかれるのを見つめているものだから、兵隊がくれたのであろう。



兵隊の魚捕り

当時の兵隊は食糧事情が悪くて、蛋白源に飢えていた。時々、坂ノ下の海岸に鯛を釣りに来ていた。ビール瓶にダイナマイトを仕掛けたものを、一斉に海へ放り込み、魚がびっくりして浮き上がったところを手掴みするのである。これを腕白どもが遠くから見ていて、兵隊が引き



米軍の携帯食を拾う少年たち

上げたあと、泳いでいって、弱っている鯛などをせしめたものである。当時の子供らの泳ぎはたいしたものので、由比ガ浜から沖へまっすぐ江の島が見えるあたりまで平気で泳いでいったものである。

相模湾への米艦船の状況

昭和 20 年 8 月 27 日にアメリカの艦隊が相模湾を覆うようにビッシリ停泊した。マッカーサー元帥の厚木上陸に備えての威嚇であったが、いつものように子供達は、平和を取り戻した海岸で水遊びに興じていた。当時は海水パンツのようなものがないので、男の子は白の六尺ふんどしを締めていたが、真っ黒に汚して家へ帰り、何だそれはいって叱られた。重油で黒くなっってしまったのである。隣のペンキ屋の親父が、拭き取ってくれた。

戦後の闇市

ヤミ市は戦後直ぐ、若宮大路のJRガード下から、井上蒲鉾店あたりにかけて発生した。JRのガードは今のようによく真っ直ぐではなく、電車が潜れる程度の狭くてななめのガードであった。江ノ電が駅東口にななめに乗り入れていたためである。江ノ電の終点は今の島森書店のあたりで、15分毎に発車していた。昭和24年3月1日から江ノ電は、今のよう西口に移った。下馬(げば)四つ角からこのあたりにかけて、水はけが悪くて水がよく出た。車など水没することがあった。ヤミ市のとっかかりの店は拓植さんといって、イースト菌を売っていた。当時は家でふかしパンを作るのにイースト菌は必需品であった。今の東急ビルのところは、林屋材木店の別棟で、それを囲むように飲み屋が建ち並んだ。口の字型の狭い道で、しょんべん横丁と呼んでいた。27〜28年ごろ、郵便局の前に街頭テレビがはじめて設置された。珍しかったし、力道山が人気だったのでテレビの前はいつも何百人という人だかりで混雑し、バスが渋滞していた。当時の郵便局は、道より高台になっていた。

## 戦時中の生活 〜鎌倉の学生について〜

古田めいさんのレポートより

(2009年当時小学生)

私は、二階堂に住んでいる鈴木さんにインタビューをしました。鈴木さんは、扇ガ谷の寿福寺の近くで生まれた女性です。第二次世界大戦が終わった年(1945年)は十五才で、師範学校予科の生徒でした。学徒勤労動員では、川崎市元住吉にある工場で働いていました。

Q・どんなものが配給されましたか？

A・お米や塩魚など。どれも量が少なかった。海に魚を釣りに行くこともありました。海水から塩を作り、その塩で味噌や醤油を作ることもありました。作った塩を、厚木の親戚に米と換えてもらうこともありました。



Q・小さい時はどんな遊びをしていましたか？

A・貝を拾ってきていろいろな遊びをしてい

ました。他にもお手玉、おはじき、カルタ、トランプ、折り紙、百人一首(坊主めくり)、縫い物、編み物をしていました。友達とよくいろいろなことをして遊びました。

Q・お風呂はどうしていましたか？

A・入れたけれど、燃料がなかったので山に木を取りに行っていました。蚊取り線香の代わりになるよもぎの葉も取りました。よもぎの葉を七輪で焚くと、すごくいい虫除けになりました。

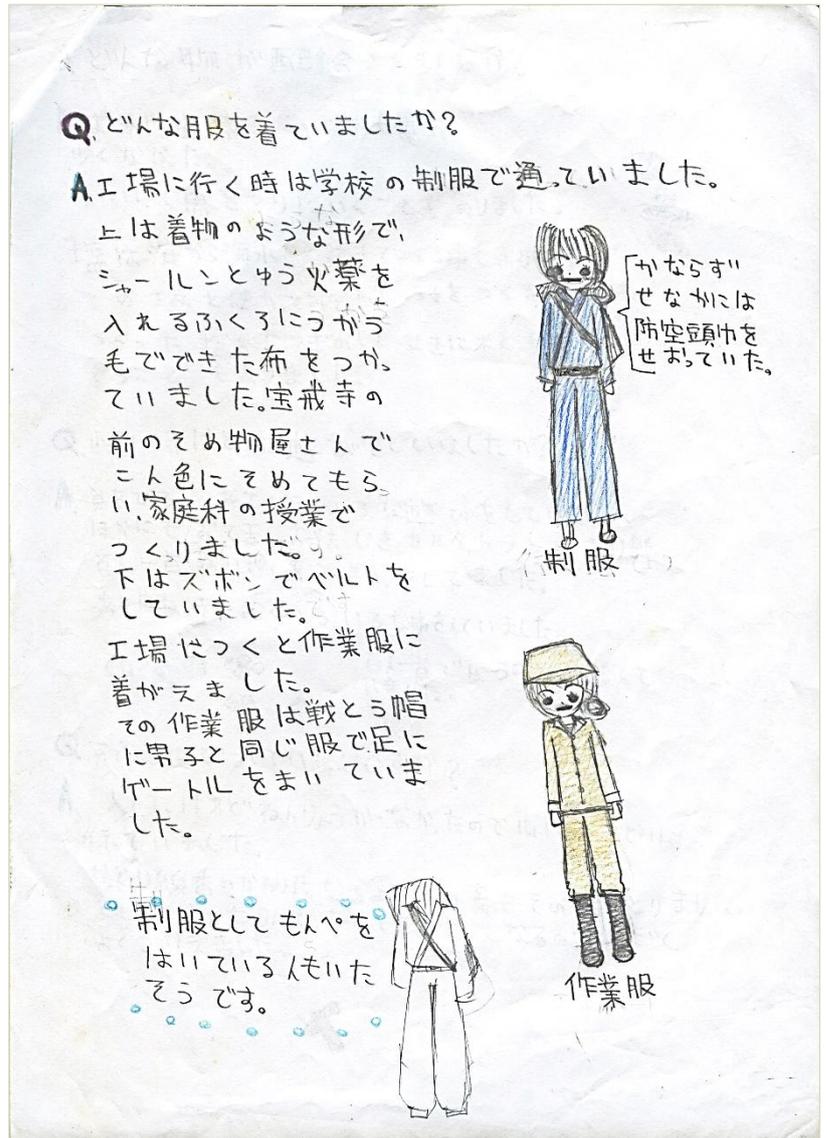


Q・どんなものを食べていましたか？

A・お米は配給で一人分の量が決まっていますが、少ししか食べられません。お腹をいっぱいにするために、ふかしたじゃがいもやさつまいも、大根の葉を干したものを、麦、こりゃんをお米に混ぜて食べました。庭に畑を作って野菜を育てました。牛乳がなかったので、瑞泉寺で飼っていたヤギの乳をもらいに行くこともありました。瑞泉寺の土地も草刈りをして、借りて畑にしていました。お昼ご飯には、かぼちゃやじゃがいもをふかして、塩をふって食べました。

Q. 戦争についてどう思いますか？  
 A. みんなが仲良くしなきゃいけないと思う。命を奪ったり、土地を奪うのもおかしいと思う。命を奪うことは絶対にいけないと思います。

Q. 平和にするにはどうすればいいと思いますか？  
 A. みんながいて、自分がいる。みんな仲良くして難民の人たちを助けてあげる。物を大切にする。命を大切に。みんなが広く優しい心をもつ。難民の人も努力している。人のことを考えればいいと思います。



「学徒出陣 鎌倉市」(写真)

昭和 18 年 11 月 21 日、鎌倉から出陣する学徒および彼らを送る学生たちは、八幡宮で武運長久を祈り、舞殿前で記念写真撮影を行なった。前列中央は座田宮司(白い正装)、その右に鈴木富士弥市長。宮司から左 3 人目は当時の鎌倉市兵事課長昼野氏。



〈関連資料〉 「虚心」 田尻千代子氏

『回想 戦争と鎌倉人』戦争体験記出版

委員会(1996年)に掲載

(前文省略) 里の父(昼野伊代吉)は当時、

鎌倉市役所の兵事課の責任者として勤務しておりました。昭和十七年の暮近くのある夜、両

親の会話を耳にしました。「母さん、私は赤紙（召集令状）や、戦死の公電を、お届することから出征兵士や戦死者を一人も出してはいない事を心苦しく思い、おつらいのではありません」両親としては、どうすることも出来ない危機の毎日であったのでしょうか。その父の心を少し軽くする出来事が発生しました。昭和十八年一月十九日兄戦死、同年六月九日夫戦死、軍艦「陸奥」は日本の機雷により呉の沖で沈没。三千人近くの軍人が戦死、夫もその中の一人でした。同年の秋、遺骨を胸にしたおさげ髪の本ペ姿の私が、鎌倉駅の前に何人かの方と並んでおりました。その時、父は号令をかけておりましたが、心なしか何時もの父より胸を張っていたのが印象的でした。（後略）

「学徒出陣―星霜五十年―一高十九年会」（書籍）

1994年9月

「東京大学鎌倉淡青会」寄贈資料より

「…奇しくも第一高等学校から第一高等学校に発展・改称して満百年にあたる今年、私たちがこの本を刊行するのは、無念の思いをいだきながら学業の中途放棄を余儀なくされて、「我が友等の我が思出は我らが永生、大きくは今後日本の歴史の流れの中に我等は生きむ」と書き残して戦場で散

り、あるいは病床で逝き、もしくは空襲で還らなかつた若い友らの面影を、思い出を、語り伝え、鎮魂するためである。また、軍隊で、工場で、農村で、都市で、学園で、死と紙一重へだてて生き残つたもののもろもろの証言を集め、語り継ぎ、「二度まで言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救う」うすがとしたいからである。…」

（「刊行のことば」より）

その他展示資料（書籍）

・「北支事变画報（週刊朝日・アサヒグラフ臨時増刊）」第一輯 昭和十二年七月 25銭

・「北支事变画報」改題「支那事变画報第4輯」大阪毎日東京日日特派員撮影 昭和十二年九月十日 20銭

・「支那事变画報第5輯」大阪毎日東京日日特派員撮影 昭和十二年九月廿一日 20銭

・「回想 戦争と鎌倉人」戦争体験記出版委員会（1996年）

・「時痕」林利雄

・「鎌倉と戦争 生きてきたを伝える」全日本年金者組合鎌倉市支部 2011年8月

・「高見順 敗戦日記」昭和34年

・「大佛次郎 敗戦日記」1995年

・「回想 戦争と鎌倉人」戦争体験記出版委員会 1996年

「鎌倉アカデミア創立記念」展

— 令和7年5月3日～25日展示



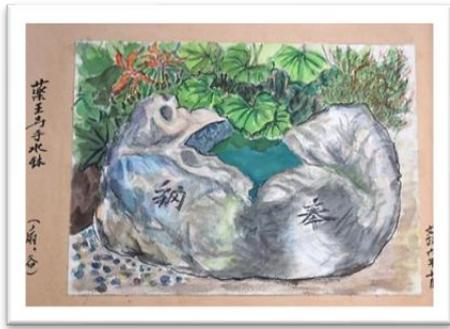
当図書館では、毎年5月に「鎌倉アカデミア（通称鎌倉大学）創立記念」展を開催し、戦後1946年にいち早く、鎌倉材木座光明寺に集い新しい時代にいどんだ研究者・文化人と若い学生たちの軌跡をたどっています。2026年は創立80年となります。（鎌倉近代史資料室だより第10号）をご参照ください。図書館HPで見られます

「展示・佐草氏スケッチ帳」より

佐草金次郎氏（さくさ・きんじろう 1907（2003））は、鎌倉市内の小坂小学校、第一小学校、第二小学校などで、41年間にわたって教員生活を送られた後、スケッチブックを手市内の名所旧跡を描き歩きました。マーク用ペンでスケッチし、自宅に戻ってから絵の具で彩色、由来など調べて裏に詳しく書き込むというスタイルで、その数は900枚以上に及びます。描く対象も名所旧跡から庚申塚、石仏群、句・歌碑等と広がり、その中には、今は無くなつてしまったものもあります。

鎌倉市中央図書館は2007年に「佐草氏スケッチ帳」の寄贈を受けました。健康法を兼ね、楽しみながら描き続けた佐草氏の作品です。

— 令和 7 年 6 月 12 日～7 月 9 日 展示



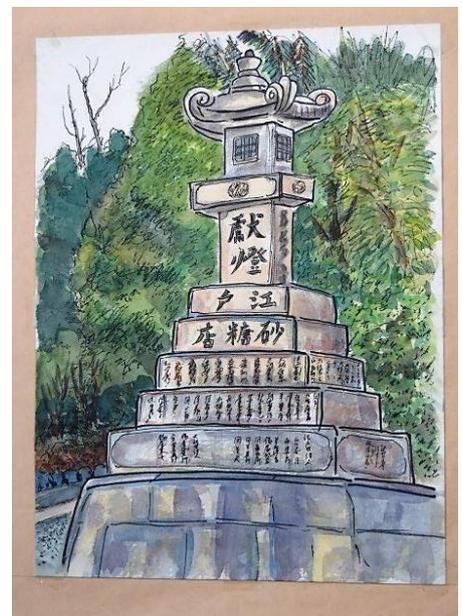
薬王寺手水鉢 文政六年十月 扇ヶ谷



小町蛭子神社手水鉢



旗上弁財天手水鉢 鶴岡八幡宮



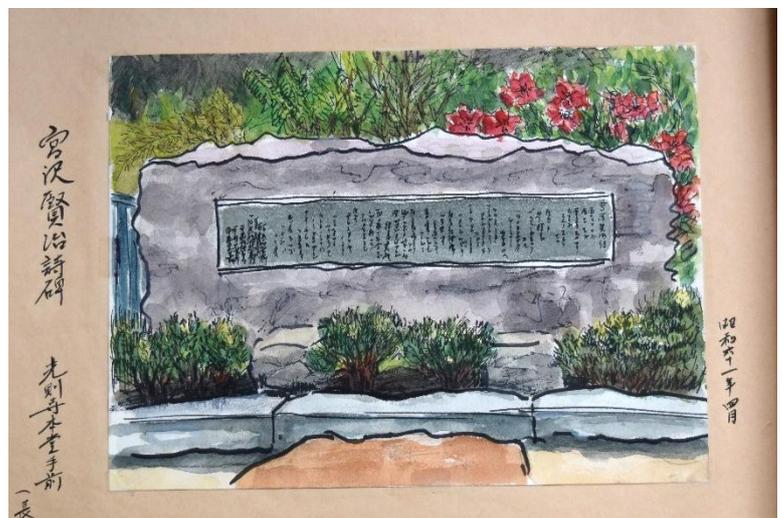
石燈籠 鶴岡八幡宮



六角ノ井 材木座飯島埕



霊梅社手水鉢 扇ヶ谷亀ヶ谷坂下



宮沢賢治詩碑 長谷光則寺本堂手前





聞夕刊

横山隆一著『鎌倉通信 其の二』高知新聞社 1995年(平成7年) 7月22日 高知新聞夕刊

画とエッセイを連載した時のもの。

高知県出身の横山氏は昭和12年に鎌倉住まいを始め、戦後の鎌倉カーニバルでは「漫画集団」として思いっきり仮装してパレードした。原画は昭和30年、氏が鎌倉ユーモア漫画とエッセイを連載した時のもの。

- ・横山隆一画「漫画集団」の原画(コピー)

- ・1956年 山崎和男氏撮影(カラー写真)

- ・鎌倉カーニバルの提灯

- ・鎌倉カーニバル委員会記念品の手拭

鎌倉彫の盆

- ・鎌倉カーニバルのシンボルマークが彫られた

図書館に寄贈された。

汗だくの審査で、一等のラッキーカーニバルは名田房代さん。カーニバルの楯を受け取り、賑やかに初日の幕を閉じた。その後2016年頃、名田さんの弟さん(八王子市在住)が鎌倉の友人にこの楯を託し、2019年中央図書館に寄贈された。

汗だくの審査で、一等のラッキーカーニバルは名田房代さん。カーニバルの楯を受け取り、賑やかに初日の幕を閉じた。その後2016年頃、名田さんの弟さん(八王子市在住)が鎌倉の友人にこの楯を託し、2019年中央図書館に寄贈された。

### 「初夏の花たち」村田昌彦氏撮影写真

村田昌彦氏(元鎌倉カメラクラブ所属)

七里ガ浜にお住まいであった村田氏は、四季折々の鎌倉の写真撮影を続けられました。2024年、ご遺族の方から大量の写真を図書館にご寄贈いただきました。

— 令和7年6月12日〜7月9日展示

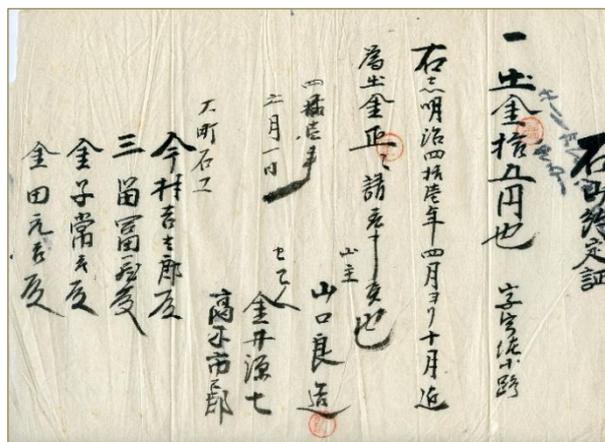


## 古文書

古文書紹介「石山約定書」

十二所山口家文書

石切りが盛んに行われていた時代の資料を紹介いたします。



一 出金拾五円也 字宇佐小路

右者明治四拾叁年四月方十月迄

為出金正二請取申候也

四拾叁年 山主 山口良造

六月一日 せわ人金井源七

高木市郎

大町石工 今村吉太郎殿

三留富蔵殿

金子常吉殿

金田元吉殿

研究ノート

「材木座幼稚園と

フランク・S・ブース」

鎌倉の別荘地時代研究会 藤本悟

はじめに

大学校去つて、幼稚園来たる。

1949年4月、鎌倉市材木座854番地にある浄土宗光明寺境内の一隅に材木座幼稚園が創立された。戦後の荒廃した世相の中で、子供たちに新しい希望と夢をもたせるため、園長大西厚子を中心に材木座周辺の有志が協力して開園したのである。

3年前の4月、同じ光明寺を仮校舎として、「鎌倉大学校」(のち「鎌倉アカデミア」に改称)が開校し、大船に移転するまでの2年間、錚々たる教授陣と向学心に燃えた若者たちの学びの場となった。そして鎌倉大学校が去つて、まだ熱気が漂うわずか1年後に今度は、地元に住む幼児たちの集う幼稚園が境内の一隅にできたのである。

本稿では、設立に協力した「材木座周辺の有志」に注目して、1949年の開園から1959年の園主交替までの10年間の材木座幼稚園を振り返ってみたい。

1. 戦後鎌倉市の幼稚園

戦前開園した幼稚園6園のうち戦後も継続したのは、ハリス記念鎌倉幼稚園、大慈幼稚園、大船幼稚園、比企谷幼稚園の4園であった。戦後になり1947年に「学校教育法」が制定され、新しく幼稚園が設立されていく。1940年代に6園、1950年代に9園へと続く。すべて私立の幼稚園である。一方、保育園の設立は私立が1950年代に2園で、公立(鎌倉市立)は1960年代に入ってからであった。

鎌倉市の幼稚園を設置主体で大別すると、1957年4月現在で、①キリスト教系8園、②仏教系6園、③神道系1園、④その他4園となっている。

鎌倉市全体の幼稚園推移、幼稚園別園児数の推移は表1、表2を参照されたい。

表1 鎌倉市の幼稚園推移(単位:人、園)

(注) 各年4月現在。1950年、1956年、1959年、1960年は計数公表なし。(出典)『鎌倉市勢要覧』

表2 幼稚園別園児数の推移(単位:人、園)

(出典)『鎌倉市勢要覧』各年度版。「創立年」は『鎌倉教育史』による

| 表1  | 1949  | 1951 | 1952  | 1953  | 1954  | 1955  | 1957  | 1958  | 1961  |
|-----|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 園児数 | 1,054 | 828  | 1,103 | 1,376 | 1,399 | 1,434 | 1,255 | 1,212 | 1,400 |
| 学級数 | 27    | 28   | 31    | 39    | 43    | 49    | 56    | 54    | -     |
| 教員  | 48    | 57   | 66    | 71    | 68    | 95    | 77    | 76    | 98    |
| 職員  | -     | 24   | 23    | 22    | -     | 22    | -     | -     | -     |
| 園数  | 10    | 11   | 12    | 13    | 14    | 17    | 19    | 18    | 18    |



材木座幼稚園園舎にて 1955年(昭和30年)頃



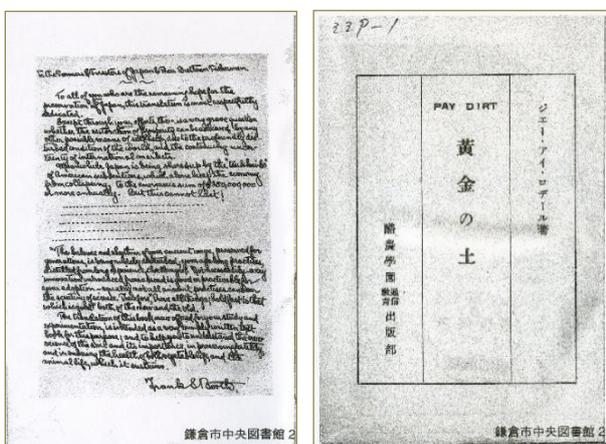
いた日魯漁業の囑託となり、さらに日本缶詰協会の相談役に就任した。ブースが材木座 894 番地にいつ転居したのかわかっていないが、おそらく南部秀子と再婚後の 1930 年代前半には住んでいたと推測される。

1941 年 12 月 8 日の開戦時、ブースは勤務していた丸ビル内の日魯漁業の執務室で「敵性外国人」として逮捕されて巣鴨刑務所に移送された。ここで 6 カ月間にわたる過酷な尋問を受け、釈放された。1942 年 6 月に出航する「第一次日米交換船」で帰国の機会が与えられたが、これを拒否し日本に留まることにした。そのため、神奈川第一抑留所（横浜、その後南足柄郡山北）で巣鴨刑務所の 6 カ月も合わせ 4 年 9 カ月に及ぶ抑留生活を強いられた。終戦で解放され、材木座飯島の自邸に帰って来た。戦前から親しくしていた飯島・小坪の人々に暖かく迎え入れられた。

ブースは、日本の戦後復興に力を尽くすことを決意し、友人たちの GHQ 交渉を支援したり、自ら居住する鎌倉の復興のためにも働いた。「鎌倉の観光行政にはとても熱心に協力してくれ特に鎌倉の道路、下水の改善には積極的な意見をしばしば述べてくれ私としてはいつも感謝していました」と市長を務めた磯部利右衛門が回想している。そして 1949 年 4 月に開園した材木座幼稚園の設立・運営にも力を注い

だ。

1950 年 3 月、70 歳のブースは澤田退蔵と共同出資で貿易商社ジャパム・エンジニアリング・カンパニーを設立して社長に就任した。一方、戦後の経済復興について農業・林業面での対策を啓蒙するため、米欧で出版された良書の翻訳書出版を主導する。有機農業の J. I. ロデル著『黄金の土』（1950 年）、木材利用の E. グレッシング著『来るべき木材時代』

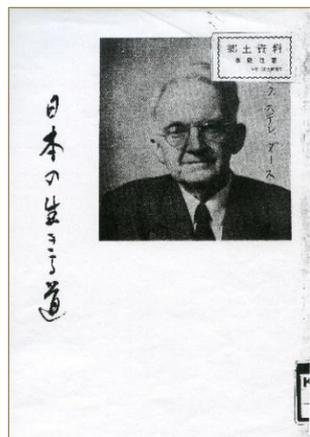


（1953 年）である。ブースは翻訳書を友人・知人に配布し、各方面で講演や座談会に出席して推進を働きかけた。そして年

来の主張の集大成として、石黒忠篤の協力をえて、石井頼一郎との共著『日本の生きる道』（1954 年）を刊行した。

しかし不幸なことに、1957 年 1 月、自邸

に押し入った強盗によって夫人と共に殺害された。



『日本の生きる道』  
フランク・S・ブース

### 3. 材木座幼稚園の設立

1949 年 4 月 2 日、戦後の荒廃した世相の中で、子供たちに新しい希望と夢をもたせるため、園長大西厚子を中心に材木座周辺の有志の協力によって、浄土宗光明寺境内の一隅に材木座幼稚園が創立された。戦前を通して、材木座地域では最初の幼稚園であった。それまでは通園するとすれば、ハリス記念鎌倉幼稚園（由比ガ浜二丁目）か比企谷幼稚園（大町一丁目）しかなかった。

それでは、材木座幼稚園について、神奈川県立総合教育センター編『神奈川県教育史 1945〜1972 資料編（下）』に掲載された「材木座幼稚園設立許可願」と情報公開請求で入手した「材木座幼稚園設立許可願」（神奈川県私学振興課、公開日：2024 年 10 月 3 日）とを比較参照しながら設立の経緯をたどっていきたい。両資料は内容的に補完関係にある。前者



「材木座幼稚園」バスの前で、光明寺総門前にて  
1955 年（昭和 30 年）頃

には審査状況を示す重要事項の追記はないが、幼稚園の設立・運営を確約する「同人申合書」に記載された「同人」の名前・役職が判明する。後者は審査過程を示唆する追記は認められるが、「同人申合書」は情報公開資料の扱いで最低限の名前のみ明らかである。

1949 年 2 月 17 日、「材木座周辺の有志」を代表して園長大西厚子が神奈川県知事宛「幼稚園設立許可願」を提出した。

許可願の主要書類は「幼稚園設立許可願」、「同附則」、「材木座幼稚園同人申合書」、「園舎平面見取図」などである。

① 「幼稚園設立許可願」（主要項目のみ）  
② 「同附則」（主要項目のみ）  
③ 「材木座幼稚園同人申合書」

① 「幼稚園設立許可願」を比べると、「情報公開資料」では、申請者は「園長大西厚子」に「設立者杉田義俊」を追記し、位置にも「光明寺境内」を補記している。また②「同附則」には「同

（注）太字は「許可願」提出後、追記・変更箇所

| ①幼稚園<br>設立許可願 | 神奈川県教育史資料               | 情報公開資料                             |
|---------------|-------------------------|------------------------------------|
| 申請日           | 昭和 24 年 2 月 17 日        | 昭和 24 年 2 月 17 日                   |
| 申請者           | 園長 大西厚子                 | 園長 大西厚子<br>設立者 杉田義俊                |
| 位置            | 鎌倉市乱橋材木座<br>854 番地      | 鎌倉市乱橋材木座 854 番地<br>光明寺境内           |
| 開園期日          | 昭和 24 年 4 月 2 日         | 昭和 24 年 4 月 2 日                    |
| ②同附則          | 神奈川県教育史資料               | 情報公開資料                             |
| 開園期日          | 昭和 24 年 4 月 1 日         | 昭和 24 年 4 月 10 日（予定）               |
| 設立者           | 同人総代 八尾新太郎<br>同人総代 杉田義俊 | 同人総代 八尾新太郎<br>同人総代 杉田義俊<br>（光明寺執事） |

③後記の者は材木座幼稚園を設立し其の運営に当り願書の通り幼稚園の使命を完うするものとす

|      |        |                      |
|------|--------|----------------------|
| 同人総代 | 八尾新太郎  | 光明寺信徒総代、<br>鎌倉市公安委員長 |
| 同人   | 磯部利右衛門 | 鎌倉市長                 |
| 同人総代 | 杉田義俊   | 光明寺執事                |
| 同人   | 藤田宗一   | 藤田製薬会社社長             |
| 同人   | 丹治 汪   | 医学博士                 |
| 園長   | 大西厚子   |                      |

この「同人申合書」によって、設立に協力した「材木座周辺の有志」が明らかになったが、ブースの名前はなかった。一方で、現役の鎌倉市長、鎌倉市公安委員長の記載が注目される。そして、同年 4 月 2 日に材木座幼稚園の設立が認可された。

人総代杉田義俊」のあとに「（光明寺執事）」が補記されている。いずれも材木座幼稚園が光明寺が設立する幼稚園であることを明示したものであると推測される。

つぎに、③「材木座幼稚園設立同人申合書」は、「認可願」提出後の同年 3 月 15 日に差し入れられたものである。なお、「情報公開資料」では、「杉田義俊」「園長大西厚子」のみ公開され、その他の「役職及び氏名」は「非公開」となっている。

「材木座幼稚園設立認可書」

「認可書」には、「設立者 杉田義俊」と明記され、県知事から認可を受けた。杉田義俊は個人の資格ではなく、「同人総代」「光明寺執事」であった。

1949年4月2日に開園され、当初は光明寺開山堂で保育が行われた。「認可願」に添付された「附則」によれば、園児の定員は60名であった。1954年に遊戯室をかねた一室（その後の園舎の基礎）の竣工後は、年少児は開山堂、年長児は園舎で保育された。その後、保育室、衛生室、運動場などが整備された。

#### 4. 同人の顔ぶれ

「同人申合書」で明らかになった「材木座周辺の有志」の顔ぶれを見て行こう。

八尾新太郎（同人代表）は、天照山刀剣所理事、磯部利右衛門の支援者、光明寺信徒総代。

神奈川県指令地第 288 号

設立者 杉田義俊

昭和 24 年 2 月 17 日付けをもって申請のあった材木座幼稚園設置の件は、学校教育法第 4 条の規定により認可する。

昭和 24 年 4 月 2 日

神奈川県知事 内山岩太郎

1948年、鎌倉市公安委員長に就任し、1954年まで約6年半の間在任した。材木座に在住。

天照山刀剣所は、1937年12月に光明寺の裏に八尾新太郎が主宰して、美濃の刀匠奈良太郎藤原兼永を招いて、「天照山刀剣所」を開所した。海軍とのつながりが深く、開戦後は海軍専属の工房になり「海軍刀剣鍛錬所」と改名。同所は前後約3千本の昭和刀を製作したという（『鎌倉水交会二十五史』34頁）。戦後閉鎖され、跡地には1954年4月に東京都北区立鎌倉学園が開校された。2004年3月閉園。現在、跡地の門柱には「天照山鍛錬場」の表札が掛かっている。

また、八尾は1948年に警察法が改正され自治体警察の発足に伴い鎌倉市の公安委員に任命された。委員は市議会の同意を得て住民のうちから選任された。1954年7月の警察法改正により、自治体警察と国家地方警察が全廃され現在の都道府県警察（警視正以上の幹部は国家公務員）に一本化され退職した。

磯部利右衛門（同人）は、戦前は鎌倉市会議員、会社役員などを経て、戦後は鎌倉市長を1946年1月から1951年4月までの間に二期務め、さらに1955年5月に就任した三期目の1958年7月に在任のまま死去した。材木座に在住。ブースは磯部に、戦前・戦後を

通して鎌倉の観光行政に対して積極的に意見を述べていたという。

杉田義俊（同人代表）は、光明寺執事、浄土宗神奈川教区長、葉山町堀内にある相福寺住職となり、1955年に相福寺の隣接地に葉山明照幼稚園を創立し園長に就任した。神奈川教区浄土宗保育協会初代会長（1965年12月6日に設立された教区内寺院の経営する幼稚園・保育園21園を構成員とする協会）。

丹治汪（たじみおさむ）（同人）は、園医。終戦直後に材木座（福井孝一宅）に住んだことがあり、のち材木座に隣接する逗子市小坪に在住。医学博士、1946年の（第一次）鎌倉交響楽団創立以来の団員（ビオラ奏者）である。ドイツ民謡『うるわし春よ』の訳詩者としても著名。

藤田宗一（同人）は実業家で藤田製薬会社社長。大西厚子は園長である。

#### 5. ブースの支援

ブースは「同人申合書」に名前はなく、設立・運営に関わったことを示す文書は見つかっていないが、次のような断片情報がある。すなわち、「その間亡くなるまで鎌倉に在住し、材木座幼稚園などいろいろな学校、慈善団体を後援するなどされてきました。」（神奈川県立図書館『ブース文庫』はしがき）、「またブースさん

は大変子どもが好きで戦後最初にできた光明寺内の材木座幼稚園の創設に多大な後援をした。」(「神奈川新聞」1957年1月30日)、「…材木座光明寺境内に設けられた材木座幼稚園が、ブースさんの物心両面からする援助の結果だ。」ブース夫妻は、園の運動会を参観したり、クリスマスにはサンタクロースに扮し、ケーキやプレゼントなどを贈ったりして園児たちを喜ばせた。」(「週刊東京」1957年2月)などから、「材木座周辺の有志」のなかに含まれていたと推測される。

ここで、ブースが「同人」との交友関係から設立に協力した経緯について、次のように推測される。ブースは戦後の幼児教育の重要性を深く認識し、いち早く幼稚園設立の計画を立案した。園児は自ら居住する鎌倉市材木座や逗子市小平地域の子供たちを対象にし、園舎は近隣の光明寺本堂東側の空地を有力候補に挙げた。この地域は戦前から幼稚園はなかった。

ブースは材木座地域から協力者を募るため、まず旧知で市長の磯部利右衛門に相談した。ブース案に賛同した磯部は、公安委員長で自らの支援者でもある八尾新太郎に参画を持ち掛けた。光明寺信徒代表であった八尾は、園舎候補地の光明寺の支援を得るべく、執事で幼児教育に関心の高い杉田義俊に境内に幼稚園設立計画を打診した。戦後、鎌倉市に仏教系幼稚園が

4園新設されたところを見ると、光明寺内部にも幼稚園設立案があったかもしれない(表3参照)。さらに、園医には鎌倉に縁の深い医学博士の丹治汪や企業経営者の藤田宗一に「同人」として参加を打診した。園長は大西厚子に委嘱した。

表3 鎌倉の仏教系幼稚園

(資料)『続鎌倉教育史』をもとに筆者作成。

| 表3 | 幼稚園名   | 所在地 | 設置時期  | 設置主体 | 宗派  |
|----|--------|-----|-------|------|-----|
|    | 比企谷幼稚園 | 大町  | 1937年 | 妙本寺  | 日蓮宗 |
|    | 北鎌倉幼稚園 | 山ノ内 | 1948年 | 円覚寺  | 臨済宗 |
|    | 玉縄幼稚園  | 植木  | 1948年 | 龍寶寺  | 曹洞宗 |
|    | 長谷幼稚園  | 長谷  | 1952年 | 光則寺  | 日蓮宗 |
|    | 来迎寺幼稚園 | 材木座 | 1955年 | 来迎寺  | 時宗  |

を割り込むまでに低下した。学級数は3学級に戻り、教員数も4名まで減員した。

材木座幼稚園の運営推移は表4のとおりである。1949年開園時の定員は60名であったが、1953年には140名まで増加した。学級数4、教員8名、職員3名といずれもピークとなった。しかし、出生数の低下(注..

1948・1949年は2,000人超、以後は漸次低下し1954年には1,119人とほぼ半減)と幼稚園数の増加で各園の園児数は減少に転じ、1958年には40名

表4 材木座幼稚園の推移

(注) 各年4月現在。1950年、1956年は計数公表なし。(単位:人、学級)

(出典)『鎌倉市勢要覧』各年度版

同人代表の1人である光明寺執事の杉田義俊は、葉山町堀内にある相福寺住職となり、1955年に相福寺

| 表4  | 1951 | 1952 | 1953 | 1954 | 1955 | 1957 | 1958 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|
| 園児数 | 83   | 131  | 140  | 107  | 76   | 51   | 39   |
| (男) | (49) | (79) | (71) | (56) | (40) | (27) | (24) |
| (女) | (34) | (52) | (69) | (51) | (36) | (24) | (15) |
| 学級数 | 3    | 3    | 4    | 4    | 3    | 3    | 3    |
| 教員  | 4    | 8    | 8    | 6    | 6    | 4    | 4    |
| 職員  | 4    | 3    | 3    | -    | 1    | -    | -    |

955年に相福寺の隣接地に葉山明照幼稚園を創立し園長となった。これは、(設立当初からの申し合わせがあったかどうかはわからないが)光明寺が材木座幼稚園の運営から後退したと考えられよう。

運営収支は明らかではないが、光明寺からの境内借地に関する費用負担は重くのしかかっていたことは否定できない。ブースの

長年の友人で常盤山文庫理事長の菅原通済は、1955、6年ごろのブースを回想してつぎのように書き残している。「1、2年前、平塚、

石黒、芦田さんらと少数の知人で労をねぎらう小会を催したが、その後毎日のように会う彼が、如何にもつかれきっているのが目立つようになった。わずかの収入はすべて公益のために使いはたし、「どうせ僕は、日本の土になるんだ、骨と皮になるまで働くよ」ともらしていた。」（『毎日新聞』1957年1月29日）

当時のブースは、1954年6月に年来の主張をまとめた石井穎一郎との共著『日本の生きる道』を出版し、1950年3月に澤田退蔵と共同で設立して社長を務めていた、貿易商社ジヤバム・エンジニアリング・カンパニーの経営も軌道に乗っていた。菅原が回顧する疲れ切ったブースが語る「わずかの収入はすべて使いはたし」という「公益」とは、運営悪化した材木座幼稚園への資金援助であったと考えられる。

## 6. 1959年の園主変更

1957年1月29日早朝、自邸に押し入った強盗によってブース夫妻は殺害された（ブース事件）。事件の発生を知った鎌倉市民は、驚きと恐怖に陥れられ、ブース夫妻の突然の死を深く悼んだ。葬儀は鎌倉雪ノ下教会で行われ、生前の多大な貢献に対して勲三等瑞宝章が授与された。逃走中の犯人は京都駅で職務質問されて逮捕された。埋葬は横浜外国人墓地で行われた。

ブース事件で最大の支援者を失った材木座幼稚園は、同人代表の八尾新太郎、園長の大西厚子等が中心となって新たな運営者探しに奔走した。1959年に運送業界の実業家で、東京都千代田区会議員の手嶋章が園主となった。千代田区立鎌倉臨海学園（材木座三丁目）を通じての縁という（『朝日新聞』2019年12月12日）。園児同士の交流などがあつたかもしれない。

変更の背景は何点か挙げられよう。①鎌倉市全体の園児数は1955年4月をピークに減少基調、②材木座地域に、1954年5月に富士愛育園（保育園、材木座六丁目）、1955年3月に鎌倉いずみ幼稚園（同三丁目、来迎寺幼稚園（同二丁目）と二つの幼稚園の新設（表2参照）。③1957年1月に財政的支援者のブースの死去。さらに、同人代表の杉田義俊が1955年に葉山に自ら明照幼稚園を創立し、材木座幼稚園の運営から後退したことも考えられる。

なお、『鎌倉教育史』によれば、「材木座幼稚園のように設置者が故人となり、その遺志を継いだ新しい経営者と交替した幼稚園もある」と記載されている（543頁）。同書では、材木座幼稚園の「設置主体または設立者」は「大西厚子」となっているが、大西の死去は確認できない。

材木座幼稚園は、2代手嶋章園長、さらに3代手嶋康園長のもとで運営を回復させ、2004年には延べ4,000人を超える卒園生を送り出し、2019年には創立70周年を迎えた。その後は園児数の減少と経費の増加による収支の悪化を主因として2021年3月に閉園された。72年に及ぶ歴史を閉じたのである。

## おわりに

本稿は、戦後まもなく設立された材木座幼稚園とそれに協力した「材木座周辺の有志」に注目し、材木座在住の米国人フランク・S・ブースの関わり合いを検討した。

終戦後の混乱期に、戦中抑留生活から解放されて材木座の自邸に戻ったブースは、材木座周辺に住む子供たちの幼児教育のために、設立を企画し、材木座周辺の在住する友人・知人の協力によって光明寺境内に材木座幼稚園が設立された。設立から園主変更を余儀なくされた10年間は、材木座幼稚園72年の歴史なかで、その基礎を築いた年月であった。

資料の不足などから、設立また園主の変更などにおいて、ブースの関わりが推測の域を免れない場面があるが、今後とも関係者へのインタビューや関連文書・写真などの発掘により、所論に裏付けができるようにさらに調査研究を進めていきたい。

## ≪インタビュー（むかし語り）⑪≫

「かいひん荘鎌倉」を守って

お話 猪股千鶴子さん（102歳）

2025年5月28日

鎌倉景観重要建築物第7号指定

1992年（平成4年）

国登録有形文化財 2009年（平成21年）

この建物は、大正13年富士製紙社長の村田一郎氏邸として建てられ、現在は旅館の姿を整え、「かいひん荘鎌倉」として活用されています。特徴としては、2室からなる大きな洋館部が独立した洋館のような印象を与えています。また、出窓（ベイウインドウ）の多さと急勾配の切妻屋根と円弧形の出窓の上の丸い屋根が、道行く人々のアイスポットとして親しまれています。所在地 由比ガ浜四丁目



かいひん荘鎌倉、裏庭藤棚から見上げる。

〈だんだんと旅館になりました〉

こちらは、最初から旅館ではありませんでした。戦後、結婚してこちらへ来ました。その時建物は空き家で、とても荒れていて、少しずつなおしてきて今日に至ります。

〈長谷の子ども時代〉

大正12年5月に長谷通りの家で生まれました。9月の関東大震災に遭っています。長谷通りにあった父母の家は潰れて、赤ん坊の私をかかえて軒先をかき分けてやっと這い出したと言っていました。みんな神明様の山へ避難したそうです。母は、私のおむつにする布が無くて困ったそうです。

母は長谷の萬屋（よろずや）出身で、父は腰

越の井上家です。両親は酒屋ではなく長谷通りの神明様の近くで呉服屋をやっていました。いつも父が新しい流行の着物を一番先に私に着せてくれました。先日、その着物をひ孫が七五三に着ていました。

小さい時の遊び場所は、いつも海でした。毎日ご飯を食べたら海へ行って、日に焼けて真っ黒だったんです。長谷の家から海へまっすぐ行くので、由比ガ浜のこのあたりのことは、知りませんでした。海浜ホテルへも行きました。海まで家は無く、家からスツと海へ行けて、熱い砂浜を歩いて、波打ち際まで行くと、足元の砂が、むじゅむじゅむじゅと海水に沈んで行くのがとてもおもしろかった。もちろん国道134号線も無かった。山の方には行かないで、海ばかり。光明寺の御十夜へは行きました。お化け屋敷があつて、金つばや綿あめを食べたのを覚えています。どこへ行くにも歩いていました。海岸通りには家なんか無くて、畑ばかりでした。

普段、江ノ電には乗っていませんでした。駅（停留所）がたくさんあつて、島森さんの所が終点。由比ヶ浜と長谷の間にもう一つ駅があつてホームなんか何もなくて、石が敷いてあるくらいで。八幡様もお参りに行ったことがなく、生活範囲が、鎌倉駅の西側中心でした。

小学校は、歩いて鎌倉尋常小学校（現第一小

学校)へ行ききました。その頃は、1学年6クラスあって1年生の先生は、藤田先生でした。子どもの時の遊びは、お手玉、石けり、縄跳びなどでした。

卒業後、母が裁縫の先生だったので、お裁縫ばかりやらされました。小学校卒業後は、実科高等女学校へ行ききました。鎌女は御嬢さん学校でした。家が酒屋で、商人だったので、おじいさんは「女には教育なんていらぬ」と言っていましたね。実科高等女学校には、池や諏訪神社があったのをよく覚えています。もちろん歩いて通いました。

女学校時代、学校からみんなで海水浴に行き、一人の友だちがおぼれてしまい、助けに行ったんですが、亡くなってしまいました。悲しかったです。

実科高等女学校卒業後、またお裁縫の学校や個人の先生の所へ行かされ、嫌いなのに。江戸棲や男物の袴も縫いました。旅館の時は、いつも着物でした。ほんとうは踊りが好きで、神社のお祭りや町の盆踊りは大好きで一番先に跳んで行って踊っていました。日本舞踊がやりたかったんです。建長寺のお稚児さんにも着物と冠を付けて人力車で3年くらい参加しました。

#### 〈戦時中の生活〉

まだ娘時代で若かったので、国防婦人会へは入りませんでした。母たちは、食べるものが無

く銘仙などの着物を持って農家へ行ってお芋に代えてもらっていました。でも戦時中の厳しい空気はあまり感じるものがなく、下馬にあつた「湘南信金」へ就職して働いていました。それで工場への徴用も経験していません。最初の給料で「そばや峰元」で友達と二人で食べた井のおいしさにびっくりしました。

#### 〈戦後〉

戦後結婚してこの家に来ました。私の時代は、戦争で男の人が少なく、結婚する相手がいまませんでした。夫は、中国からの引揚者です。中国で米や酒を扱う貿易の仕事をしていました。

縁談の話は叔父たちから来ました。私の叔父が裏駅(御成通り)で和菓子屋「ちもと」をやっている、夫の叔父が駅前の「浅草食堂」の親戚でした。引き揚げてきて、二人がどこかの畑でジャガイモを作っていて、そこで話が出たので、ジャガイモが縁です。

この家は、借金をして買って、修理して売るつもりでしたが、なかなか買い手がいなくて、その頃、まだ旅館ではありませんでしたが、日本人の旅行者や横須賀のアメリカ兵がお客で、ダンスパーティーなどをやっていました。海のそばの「大海老」(おおえび)さんもそんな感じでした。この辺りでは、今の「松原庵」の廣瀬さんは古かった。由比ヶ浜からこの辺りは、たばこ産業(専売局)の仁尾さんの土地でした

ね。

何とか食いつないでいって、だんだん旅館にしていきました。母の家族が毎日泊まってくれて、助けてくれました。米軍の接収はありませんでした。鎌倉海浜ホテルは接収され、その後火事になりました。「海濱荘」が旅館としてスタートしたのは、昭和27年です。宿泊客は、お米を持って泊まりに来ました。

#### 〈めずらしい宿泊客〉

ピアニスト、リヒテルさんが泊まったのはその後の話。1970年の大阪万博の時、初来日だそうです。東京で公演なのに、うちばかり泊まる。気に入ってくれて。東京の事務所の人が「鎌倉なら遠くない」と言って、来られるようになりました。グランドピアノを楽器屋さんから借りて置いておきました。夜中に弾くので他のお客は取りませんでした。奥さんと秘書と三人だけお泊めしていた。出たり入ったり自由にしていました。来ると半月ばかり泊まっていた。



玄関からラウンジへ

